

**幼児期の学びの芽生えから小学校での学びをつなぐ、
主体的で対話的な学びを通した気づきの質を高める指導の在り方**

日立市立助川小学校

1 はじめに

本校では、全国学力・学習調査などの結果から、「対話的な学び」を実現するための学習指導の工夫や、見通し・振り返り活動の充実を図ることに焦点をあてた授業づくりを行っている。

また、生活科や総合的な学習の時間では、地域の方やゲストティーチャーを招き、昔遊び会や、さくら日立訪問など、様々な体験活動を行っている。授業では、体験したり実践したりしたことを文章や絵で表している。文章や絵で表したカードなどを教室に掲示したり、グループの中で読み合ったり、発表会を行い、友達の意見を知り、伝え合う活動を充実させている。それらの活動を通すことで、子どもたちの気づきの場を共有し、質を高めていけるのではないかと考えた。

そこで、生活科では、子どもどうしの伝え合いの場を設定することで、子どもが対象に関わる意欲を高めたり、気づきの質を高めたりすることができるのではないかと考え、実践を進めていった。

2 指導案等

(1) 単元名 あきとなかよし「いきものとなかよし」

(2) 目標

- ① 虫の動く様子や身体の様子について、進んで観察しようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- ② 虫の不思議を虫めがねや本を使って調べ、絵や文に表現しようとしている。
(活動や体験についての思考・表現)
- ③ 虫の動きや体の特徴に気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気づき)

(3) 単元について

本単元は、学習指導要領の生活科の内容（７）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、大切にできるようにする。」を受け、子どもたち一人一人が身の周りの生き物と触れ

合う活動を中心に設定したものである。児童が継続的に生き物を飼ったり植物を育てたりすることを通して、身近な生き物や植物に興味・関心をもち、いろいろな生き物の体のつくりや特徴を見つけ、それらが命をもっていることや成長していることに気付き、大切にすることができるようにすることをねらいとしている。

本学級の児童は、これまでの校庭での遊びや学校の周りの公園探検や通学路の探検を通して、少しずつ身の周りの生き物に目を向けることができるようになってきている。外の活動で小さな生き物を見つけると、楽しんで虫を捕まえようとしたり、休み時間には、ビニール袋をもって虫探しに生き生きと出かけたりする。ほとんどの児童は、「生き物が好きだ」と答えている。反面、進んで関わろうとする児童は少数で、さらに自分で生き物の世話をした経験のある子どもや、生き物の世話の仕方、えさの種類が分かるなど生き物に触れて実際に世話をする経験をする子どもは限られている。生き物に関心がありながら、さわれない子どもや眺めているだけにとどまっている子どもも見られ、生き物と関わる経験が不足していることが伺える。生き物が好きで、昆虫などを捕まえて喜んで教室に持ってきた児童も、虫かごに入れたままえさを与えなかったり、いつの間にか忘れてしまっていたりと生き物の生命を大切にし、根気強く世話をしようとする態度は身に付いているとはいえない。

第1学年2組 実態調査 平成29年9月8日			
(男12名 女18名 計30名)			
①	虫や動物は好きですか	好き	27名 嫌い3名
②	虫や動物に触ったことはありますか	ある	30名 ない0名
③	虫や動物をお世話したことはありますか	ある	11名 ない19名
④	虫や動物が好きな食べ物は知っていますか	知っている	8名 知らない22名

そこで、本単元の指導にあたっては、身近な自然の中や教科書などの写真から、気候、虫、小動物、植物などの変化に気付くことで活動に入りたい。花壇や草むらなどで虫を捕まえたり、飼ったり観察したりして、生き物に関心をもち、進んで関わるができるようにしたい。また、身近な生き物がどこに住んでいるのかを探るために、学校の敷地内で生き物探しを取り入れる。そこから更に、生き物には、それぞれにあった住みかやえさがあるということを調べ、自分たちで飼育ができる環境を作っていく。そして、継続的に世話をすることを通して、生き物の変化や成長、世話をすることを通して、命の大切さに気付かせるようにしていきたい。

(4) 指導計画(10時間取り扱い)

- 第1次 秋と夏の違いを、写真と比べながら季節が移り変わっていることを話し合う。(1時間)
 第2次 飼ってみたい虫について調べ学習をする。・・・・・・・・・・・・・・・・(2時間)

次	時	主な学習活動・内容	評価計画			
			関	思	気	評価規準
2	2	・虫がどのようなところにいるのか考え、探しに行く計画を立てる。	○		○	・進んで虫取りの計画に参加し、虫の生息しているような場所などに気付くことができる。
	③ 本時	・飼ってみたい虫について調べ、飼い方や虫の体の特性について気付く。			○	・虫の体の特徴や、住んでいる場所や夏と秋の違いに気付くことができる。

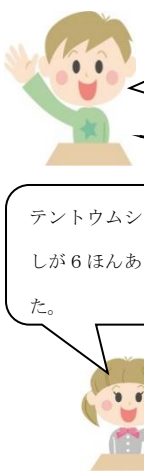
- 第3次 飼ってみたい虫を、調べたことをもとに探し、グループで飼育する。・・・(4時間)
 第4次 虫博士となり、調べたことを発表する『虫博士発表会』をする。・・・(3時間)

(5) 本時の展開

- ① 目標
 ・飼ってみたい虫について、図鑑や写真を使って調べ、体の特徴や住みか、えさなどに気付くことができる。(③)
- ② 準備・資料
 ・虫の顔写真 ・図鑑 ・虫眼鏡 ・ワークシート

③ 展開 ★「対話的な学び」の実現のための手立て

学習活動・内容	児童への指導・支援・評価
1 秋の虫の写真を見て、課題について見通しをもつ。 ・カマキリの顔はおにぎりみたい。 ・バッタの顔は目が横についてる。 ・ショウリョウバッタの顔は細長い。 2 本時の課題のめあてを確かめる。 むしのからだ・すみか・えさの『むしはかせ』になろう！ 3 グループで生き物について調べる。 (1) 個人で調べる。 (2) 個人で調べたことをグループで話し合う。	・秋に見つけた虫の写真を「？ボックス」に入れておき、提示することで、本時の活動に意欲を高めたい。 ・虫の体の特徴や、色などについて考えられるように、写真を見ながら示し、気付くポイントを与える。
トノサマバッタチーム えさ…くさ すみか…くさのなか ◎じゃんぷするあしがある。	・虫博士になって、学級 みんなにクイズをだしたり、発表したりするという目的意識をもたせ、学習の見通しがもてるようにする。 ・虫の体のつくり、生きているすみか、えさの種類などポイントを絞って調べられるようにする。
ショウリョウバッタチーム えさ…あぶらむし すみか…くさのなか ◎かおが、ほそながい。	★写真を見たり、図鑑やグループの友達の意見を聞くことを通して、自分たちの体のつくりや動きと比べたりすることができるよう、声をかける。
カマキリチーム えさ…あぶらむし すみか…くさのなか ◎おおきなまがある。	★写真を掲示し、ワークシートに記入し、話し合いする活動を通して、「足の先はギザギザしている」「隠れている羽根」など、体のつくりや形などに着目することができるようにする。
テントウムシチーム えさ…あぶらむし すみか…木のえだ ◎はねがある。はんてんがある。	・虫の足の形や色など、特徴が見つけれない児童には、ヒントカードを見ながら書けるように支援をする。 ・調べることにつまずきが見られる児童には、声をかけたり、一緒に活動したりして支援する。
コオロギチーム えさ…なす・きゅうり すみか…土の中 ◎あしがギザギザしている。	・教科書以外にも、調べるための手助けとして本や図鑑を用意しておく。 ・グループの中で、進んで意見を出している児童や、体の特徴などについて気付きが見られた児童を称賛し、クラス全体に広げる。
スズムシチーム えさ…なす・きゅうり すみか…土の中 ◎はねでおとをならす。	・分かったことや、驚いたことについて「とっておきのふしぎ」としてワークシートに書かせる。 ・ワークシートに書いたことを全体で発表させ
	虫の体の特徴や、住んでいる場所や夏と秋の違いに気付くことができる。(③ 観察・ワークシート)

4 気付いたことをワークシートに書き、全体発表する。  トノサマバッタは、ジャンプするあしがながいです。 カマキリは、おみずをのみます。ソーセイもたべます。 テントウムシは、あしが6ほんありました。 コオロギは、土や草にかくれています。ウサギごやのちかくにいるとおもいます。 5 本時の内容を振り返り、次時の活動内容を知る。	・虫の体の特徴や、住みかなど虫の不思議を見つけることができたか、ワークシートに記入して振り返る。 ・次時は、本時で調べた「むしのふしぎ」をもとに、虫を探しに行くことを伝える。 ・休み時間などに、虫を探しておくように伝える。
--	---

(6) 資料

〔調べたことをもとに、主体的に虫探しをしている様子〕



〔虫博士発表会での様子〕



4 成果と課題

- 調べ学習をするために、記念図書館から一人一冊程度図鑑を借りることで、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができた。
- 見通しの場面で相手意識や目的意識を伝えることで、発表会に向けて、グループでの話し合い活動を充実させることができた。

- 振り返り活動をワークシートだけではなく、ペアトークや全体で発表する活動を取り入れた。友達の意見を聞いて、考えが深まった児童の姿が感想カードなどを通して見られた。
- ▲気付きの質を高めるために、幼児期から児童の発達段階に合わせた思考力や表現力について分析し、これらの力をつけるための指導法についての研究を充実させていきたい。
- ▲児童の気付いたことを見取る有効な評価方法についての研修を深めたい。